

## 「リアル熟議」教師教育について語ろう アンケート まとめ

### 1. 「熟議」の議論内容に関して、ご発言されたこと、主張しきれなかった思いなどをお書きください。

#### 【内容について】

教師教育は実は「採用」（副大臣も話されましたが）の問題に大きな影響を受けるものだと考えます。教職をどのようにしたらオープンな「専門職」とすることができるか、具体的な議論をする必要があると考えます／そもそも学校の「使命」と「責務」の確認が必要かなと思います／教員養成・研修の生涯的なサイクルを支える仕組み作り。現場・教育委員会・大学・民間教育団体のハブとなる組織があって、その都度の実践的関心に沿ってアクセスできるような／教員になりたい人、その養成に関しては議論されたかと思うのですが、実際に教育現場にいる人(教師)の声が少ないように感じました。教師として送り出した人材がどんな現場でどんな活動をし、何に困っているのか、そこも耳を傾ける必要があると思います／教育費をもう少し充てて、次の世代へつなぐ／

実践的な力と専門性について、その内実がよくわからない、それらを個別に精査する必要がある。自分が大きな私大で教員養成の授業に関わっておりその責任と弊害を考えさせられます。大学の教員養成システムは、しっかり考えなければならぬと思います／教育というものには様々な要素が必要とあって、例えば旅行、文化、遊びなど…それについて具体的に何があるかなどもう少し話すことができたら面白いと思った／異質な他者とのコミュニケーションが大事です。学生は同質、同意見のコミュニケーションには意欲的ですが、意見、立場の違う人との学びが不可欠です（協働的学び）。子どもたちの現実、たんに子どもと向き合うだけでなく、子どもたちの現状は社会的、経済的な問題とつながっています。教師もこの社会と子どもの接点（貧困等）に向きあう資質が必要です／ICTを「道具」として活用すること。ICTを活用して国際理解教育を進め、教員ネットワークを広げる／実習公害になるような学生に対する指導と免許取得について／教職課程の授業やカリキュラム作りに携わって、同じ思いの仲間がいることに力づけられました。学生のコミュニケーション能力や、最近不安に感じている「6年制」の妥当性などです／教員養成の課題…学生自身から来る不安、指導案の作成。教員養成の資質・能力…大学でしかできないことがある（教養教育）。子どもに対する人権教育。実習…現時点では長期化しても意味がない／教員養成に関して、もっと生徒を現場に送りこむ働きかけをすべきではないかということ（子どもの姿が見える教育）。研修やコミュニティづくりをイベントではなく、仕組みをしっかりと作ること／大学と教員養成の関係をどう考えるか（理論・理念ではなく、現場からわかること）／養成で、学生は内容を理解しわかったと思っ

ていても実はわかっていない。養成のポイントがつかめていないまま、改革の議論をしても空しい。実習の実態を改善することが実に困難なのに、今のままで期間を論議しても空しい。理論と実践を結合した養成はスローガンでは意味がない／理論と実践について話したが、大学と現場の連携を重視したい。授業に至るまでの準備が大切／コミュニケーションの大切さと保護者への対応が大切。教育実習に活かせるまでのきちんとした教育／

教員研修はやらされてやるのではなく、自主的にやりたくなるような学校にすることが必要である／教師に対して「ここは目をつぶろう」という風潮の復活／「実践的な研修」のイメージはばらばらだけど、思ったより共通で意外と具体的に何をやればいいのか（授業の継続的改善につながる研修システム）が見えてきたかもしれません／

大学における教師教育者の開発について、これから突っ込んだ議論と見直しが必要になってくると思いますが、教師教育を行なう者の「資質」が何なのかもっと知りたいと思いました。また、教師教育のプログラムを作る能力が大学や大学教員にあるのかもしくはその能力を高めていきたいと思いました。人はどうしたらオープンになれるのかを人に尋ねました。道のりは遠いが、日々の実践をコツコツ積んで、学生を育てるところからしか次は生まれない、と改めて思いました。

### 【議論について】

合意形成を丁寧に進めていく。そのための方法論を工夫する。一億人の熟議は可能か？に取り組むということですね。テーマは焦点化されていましたが、それぞれのバックグラウンドに違いがあった。議論を起すことと焦点化することのどちらを重視すればよいかと感じました。「熟」議と考えていたが、残念ながら「熟した議論」でなかったように思われる。学生の立場からいろいろと語らせていただきました。しかし、若輩故、机上の空論になりがちだった感じは否めません。学部と「+α」がともに職業人としての教師の養成に・・れているのに、その独自性が明確でないことが、どこかで、議論に飲める込めない引っ掛かりになっていたように感じた。自分の考えを述べる場はあまりなかったが、今日は満足しています。時間の大切さ。足りなさの問題じゃなくて、使い方の問題。それが質・内容を定める。気になったのは、グループワークの時に、お話しされる人と聞き役に回られる人がいるときに、そこをコーディネートしたりつないだりする方がグループにいないと、はなさらた方の意見が全体の意見になってしまう感じがしました。「エビデンス」に基づいた具体的な議論をするには時間が不足していたとともに、私自身の準備が足りなかったと思います。ネットワークを作るきっかけとしてはよかったと思います。時代の要請とは何かについての議論をもっとしたかった。教師力、人間力、指導職の観点から、教師の資質についてももっと意見交換をしたかった。

## 2. 「熟議」の運営方法について、お感じになったことがあればお書きください。

### 【もっと熟議したい】

時間がもっとあればよかったです。気持ちよかった。がプログラム一つ一つが若干短い。一つのテーマについて、じっくり話し合える時間が欲しかった。また、こんな機会があれば参加させていただきたい。時間が短かったので、今後継続的にこのような機会を設定していただけるとありがたいと思います。大人数のワークショップであったためにやむなしを思うが、ワークショップの運びにもう少し丁寧さが欲しかった。もう少しゆったりしたペースで文字通り「熟議」できるようにしてください。今日はこの形で良かったと思います。もう少し時間があれば「熟」すことができたかと思います。もう少し事前に考えをまとめてこれれば良かったと思いました。この手のワークショップはいつも時間が足りなくて…。多様な考えを持つ参加者が気持ちよく交流できるように配慮された運営だったと思います。もう少しじっくりと踏み込んで議論できる場面があっても良かったと思います。面白かったです。もっと時間が欲しい！と思いました（と思う位、楽しかったです）。タイムテーブルをもっとはっきり示すと、より話し合いに時間を使うことができたかもしれません。

### 【これで良かった】

熟議は2度目ですが、手際のよい運営でした。3時間ということで結構長くやるという印象が当初ありま

したが、全く時間が足りないという感じでした。充実していたためだと思います。間延びがありませんでした／身分を明らかにしないで対等に教師教育関連の協議をして問題の本質と解決方法、今後の課題について自由に話し合える雰囲気があり、素晴らしいと思います／とてもよかったと思います／ワークショップ形式で良かったと思います／勉強になりました／長い時間をスムーズに、充実したものにしてくださり感謝しております／とてもパワフルで楽しくてあっという間に時間が過ぎた感じです。ありがとうございます／和やかで活発な雰囲気の中で議論できたことはよかったと思います／午前も参加しましたが、皆さんとたくさん話せてよかった。学生も教育委員会の方もいました／参考になりました／手際よく進行されていて楽しませていただきました／いろいろな先生方とお目にかかることができ、このような機会がもっとあればいいと思います／楽しかったです、ありがとうございます／いろいろな方と交流できて良かったです。勉強になりました／スタッフのみなさま、温かな運営ありがとうございました。お疲れさまでした／ここまでの運営にこぎつけるには大変な時間と労力がかかったと思います。有難うございました。本日は大変勉強になりました／事前の書籍の読み込みが内容の理解をスムーズにした／

#### 【もう少し…】

全体の流れについて告示があるとよい／3つの視点があり、焦点が絞り込めていないように感じました／討論テーマが大きかったのではないのか？時間が足りなく感じた／論点をもう少し狭めるとさらに深いディスカッションになったかと思います／もっとテーマを絞るのもありだと思いました。グループワークをもう少し深めたかったです／内容が盛りだくさんだったので、時間が足りず「熟議」にまでなっていなかったかも／テンポが速くて疲れました／ゴールが見えないまま話し合いが続いてしまった／カケアイサイトの情報を事前にチェックしていたので、読み込みの時間ももったいなかった／時間の使い方の問題が、質・内容を決めるということが言えると思います／初めての参加ですが、パネル方式の方が他のグループの中身が見えやすいかと思います／ワークショップは熟議にふさわしいとは思えない／他人の聞き取りのまとめでは、言いたかったポイントは提示できなかった／もう少し教室が広い方がよいかもしれません／学生の意見がもっと欲しかった／

#### 【提案】

大きな課題なので、一度にすべてを共有することは不可能なのであせらず進めたいし、また政治的意思決定者に届けたいですね／熟議がどう実っていくのか、今後の展開を継続的に伝えてほしい。そして、4年くらいできちっとリセットして、次に続けていくようなシステムとして動いていくとよいと思います。方向目標、到達目標はどこに？／

### 3. 本日の「熟議」は、教師教育に関わる自分自身にどのような気づきがありましたか？

3分野は不可分にして密接につながっているので、どこかが変わることによって他の部分も変わっていくと思いました／教員養成、教員研修、教師教育の開発について、三位一体で考えていくことの必要性を感じました／3つに分けて discussion するのは難しい。これらはたがいに深くリンクしているということを改めて深く感じました／当然のことだが、共通項が多いことがわかった／学校現場に自分がどう関わり、どう教育を支えていくか考える機会になりました。教師教育を考えることは、教育を考えることであり、教育を考えることは社会を考えることだと思います。自分がやれることをやることが大切と思いました。日々の

仕事に終わらずコツコツ積み上げなくては…／「大事そうなこと」が羅列的に出ているとき、議論は難しい。多少もめてもビジョンの話が必要ではないか？／ほとんどすべて既知のことであった／全て情報不足でした／教員になりたいと思える教員養成になっていないということ／今日の熟議はとても刺激になりました、現場で働いている皆さんとお話しし、意見交換できたことはよい経験になりました。今日は特に教員の養成について考えましたが、コミュニケーション力ということばがキーワードとして多く出てきました。人といかに関わっていくか、自分にとって課題だと考えています。今回、この会に参加させていただき、現場の多くの方々とコミュニケーションを取れました。この経験を今後に生かしていきたいと思います／教育実習の受け入れ先である学校の教員に現状と課題をアンケート調査してまとめてみたいです。あとは教員研修、初任者へのメンタルサポートを広げていきたい／人の人間形成観を聞いたおかげで自分の人間形成観の基本モデルに気付いた／

### (1) 教員養成について

一言では言えないくらいです／理論と実践の融合について、さまざまな立場の方から意見をうかがうことができ、これからの自分の大学での教育のヒントになりました／初等・中等の区分け、学部「+α」の内容などいくつかの観点がとても参考になりました／知識・経験の幅広さが必要と思いました／午前の活動の中にあつた「私の感じ方、考え方」と「相手の感じ方・考え方」を自覚しつつ、チームを作ることの必要性／学生として、養成される側として現在学んでいる理論をないがしろにすべきではない／指導案の作成方法について／学生本人の意識の問題について／実習生の9割が先生にならない！いい先生のポテンシャルを持っている学生が企業にとられる仕組み／やれていることはある。「迷惑実習」をなくそうという呼びかけはすごい／大学だけではなく社会全体で考える課題／大学で何ができるのか。「社会性」というキーワードが気になりました／「理論と実践の往還」や「実習」の中身の議論が必要だと思った／コミュニケーション能力を高めることに重点を置く（ディスカッションなど）。教育実習の延長、その弊害／現場と生徒と大学がうまくサイクルを作る。現場に慣れる。実践を！⇔大学院では理論だけ／社会人という点からの教員養成の見方は新鮮でした／教師に必要な力について皆さんがさまざまに考えを述べておられ、大変勉強になりました／他大学でも類似の問題（学生のコミュニケーション能力 etc.）があること／社会との接点の重要性を再認識しました。NPOなどの役割とか／大学で学生が受けるたくさんの授業そのものが、学生の授業力に全く貢献できていないことを改めて自覚しました／抽象的な論議の面が否めない。自分で研鑽していけるための教師の力量の神髄をこそ大学で教えないといけない、それを行える教授はどれだけいるか／大学教員の方も非常に迷いがあるのだなと思いました。課題と思っている点も、共通点がたくさんあると思いました／社会全体で、ヴィジョンを共有し、つなげていくことが必要だと思いました、スタンダードなどもっと書くレベルで考えられるべき／大学だけでなく、現場との連携によって育てたい教師像を明確にすることを学んだ／各大学のカリキュラム等の改善が必要ですが、一方で、教育政策（例、6年制の場合の院生の学費問題など）にも目を向けていくべき／改革プランの共通理解のもとに、日本の教員養成の流れが変えられる可能性を感じた／教育実習に行く前の学生に職員ができる範囲で協力をし、よい学生を教育実習に出したいと思います／

## (2) 教員研修について

さまざまな観点から意見をいただき、持論を見つめ直す機会となった／社会的共有化。多様な成長、学びの場をプロデュースすることに魅力を感じました／NPO か大学が研修センターを作り大学をベースとした研修の組織を作るのがいい。そのスタッフは、教育系の学者、オーバードクター、現職教員が入る／これから教育実習となるが、自主研修もどんどん行うべきでは？と感じた／（どちらかという個人能力upを考えていたため）チームとしての教員の力をupさせることの重要性に気付かされました／自由な研修、主体性の問題、が求められているんだと感じました／大学の先生も小・中・高との連携が必要だと感じている／戻ったり出たり、というサイクルの大切さ／「自ら主体的に参加したい」という教員の意志は強いと改めて感じた／選択できる研修を。「やらされてる」はダメ。「楽しい」と思う研修／官製研修の問題を指摘していたのが、共感できた／自主研修で本当に力がつくのか疑問／自分がわかること<他人に教えること を高めること=授業力を高めることが中心となっていること／自分の考えていることと、グループ内のメンバーの考えていることが同じようなことが多かったのですが、違った意見もありましたので、参考になりました／立場の違いから話の焦点が合いませんでしたが、逆に「違い」を当然のこととして受け止める工夫、力も必要だと感じました／教員の年齢構成、学級規模の影響力の大きさを再認識しました。オンデマンド研修の学級での難しさ／現場の先生の求めている者と、行政の考えに違いがあると思ひ、どうすり合わせるか考えてみた／場所はたくさんあるのに、うまく機能しておらず、教員のやりたい研修が必要と思ひました／初任者だけでなく、常に授業の向上に向けた研修を重視したいと考えた／自由性に依拠した研修は大事であり、必要ですが、一方でその学校が抱える地域性や課題を直視した学校改善のための研修は不可欠です／教育現場に合わせた教員研修が必要だ／

## (2) 教師教育者の開発について

価値観のすり合わせ、磨き合いの必要性／ビジョンを丁寧に共有すること／「教員養成」を大学の重要な使命として認識するところから始める必要があるように思ひます／ファシリテートがキーワードになりつつも、まだこの中でも広まっていないこと／ファシリテーションの認知度が低いことに正直驚きました／ファシリテーション能力は必要であると思ひますが…／自分たちがタコつぼ状態に陥っている意識はある／学生にどうしたら「自信」を与えることができるか／学生の身なのであまり思ひ浮かびませんでした／理論だけではなく「実践」を／実習校と大学との協働の可能性と必要性について認識を新たにしました／大学と現場の協働をどうシステム化するか／教師教育をするのは大学教員だけではない、という発言が印象に残りました／実習で学生をお願いするだけでなく、大学教員が学校の教育活動に貢献できることがあれば、もっと連携意識が持てるのではと思ひました／ここはよくわからなかった。授業を実際に作り、自薦することができない人たちだけでは開発できないのではと疑念があるが…／周りにモデルになるような教員があまりいないと感じている参加者が多いのに驚きました。ここにも教員同士が孤立している傾向が現れているのかもしれませんが／NPO や大学による研修センターが教師教育者の養成機関になるのはどうか／研究領域による選定ではなく、総合的な見地から人材を育成すべきと思ひました／プロ教員の資格とは何かについて、考えてさらに開発を進展させる必要がある／



\* \* \*  
\* \*  
\* \*  
\* \*  
\* \*